

IHF High Performance Camp Report

【日程】 2024/7/4（木）～7/9（火）

【場所】 Vierumäki, Finland

【参加国】 カナダ、アメリカ、フィンランド、チェコ、ドイツ、ハンガリー、中国、フランス、ノルウェー、オーストリア、スロバキア、オランダ、韓国、イタリア、ポーランド、日本（計16カ国）

【参加人数】 選手72名、コーチ20名、MNAリーダー20名

【日本の参加者】 細山田 茜（選手）※道路建設ペリグリン所属
寺内 姫夏（選手）※Mississauga Hurricanes所属
山口 七穂（選手）※TOYOTAシグナス所属
久保 英恵（コーチ）
大澤 ちほ（チームリーダー）

【キャンプ概要】

選手、指導者、チームリーダー、それぞれの立場での**リーダーシップ**の育成を目的に開催されたキャンプです。

選手は、年代ごとに構成された即席の4チームに分かれ、チームごとに氷上練習や試合、オフアイスのトレーニング、講義に参加をして、他国の選手とコミュニケーションを取りながらリーダーシップを学ぶことを目的としています。

指導者・チームリーダーは、講義、ディスカッションなどを通して、各国での現状や取り組みなどの共有、またトップカントリーにおけるチームづくりの方法やリーダーシップについてのアイデア、女子チームにおけるコーチング・チームづくりの方法などを学ぶプログラムとなっていました。

【今後に向けての課題】

今回のキャンプを通して以下2点が、日本の女子アイスホッケー界の発展のために必要だと感じたことです。

①コミュニケーション

選手－スタッフ間、選手－選手間のコミュニケーションを円滑にし、チームとして同じ方向を向いていくことの重要性を痛感しました。トップカントリーになればなるほどコミュニケーションに力を入れていて、選手・スタッフとチームに関わる全てのメンバーで信頼関係を構築していることを実感しました。

②女性スタッフの育成・発掘

女子選手と男子選手の根本的な違いを学ぶ講義や、トップカントリーのチームづくりについて学ぶ中で、指導者はもちろん、チームに携わる関係者を含め女性スタッフの育成や発掘が重要だと感じました。女性スタッフの発掘は他国も力を入れて取り組んでいることでもあり、日本も同様に注力していくべき課題だと感じました。

【所感など】

■久保

今回たくさんの方のお話を聞いて改めてコミュニケーションの必要性を感じました。トップチームでさえも苦勞してる部分で積極的にスタッフからアプローチをかけて選手のモチベーションを上げるなど、工夫されていた。文化の違いはあるが、日本チームは選手とスタッフ間のギャップがあり、大きくみてチーム一体感が少し欠けていると感じました。現に選手からもギャップを感じるという意見があり、改善しなければいけないと思いました。

また、フィードバックについても行われているが、ネガティブな部分が多く、ポジティブな部分を多く伝えることによってパフォーマンスが上がるのではと感じました。

今回初めて参加させていただいて、学びの多い時間となりました。このような機会をいただきありがとうございました。

■大澤

他国のチームづくりの方法やリーダーシップについてを知ることで、多くの刺激を受けたキャンプとなりました。特に女子チームのチームづくりにフォーカスした内容が多かったので、自分自身が選手の時に感じていたことを改めて深く学ぶ機会となり、今後の日本の女子アイスホッケー界の発展に繋げていければと思います。

今回は他国とのディスカッション以外にも、IFとのディスカッションの機会が設けられていたので、日本の現状を詳しく聞いてもらえるチャンスでもありました。今後、IFとも連携しながら環境改善に向けて進めていけるような可能性を感じることができました。

また、日本はランキング上位国としてはもちろん、アジアのトップ国としてこういった場での発言力が重要になることも改めて感じました。日本としての意見をしっかりと伝えられる準備をして、積極的にこういった場に参加することができれば、他国の日本に対する見方も変わってくると思いました。アジアでの環境、日本での環境を変えていくためにも、直接声を届けられる機会を有効的に活用すべきだと強く感じました。私自身もそうでしたが、参加することで自国の環境について考える機会にもなるので、より多くの選手や日本の女子アイスホッケーに関わっている方々が、こういった場に参加できると日本のホッケー界にとって大きなきっかけになっていくと感じます。

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

